

応用地質学会東北支部技術講習会報告（11月）

日本工営(株) 中曾根 茂 樹

日 時 平成10年11月20日(金)
 AM 9 : 30 ~ PM 4 : 30
 場 所 宮城県婦人会館 5 F 大会議室
 参加者 63名 ミニシンポジウムテキスト
 50冊完売
 技術講習会テキスト71冊
 午前の部 ミニシンポジウム
 「東北の地形地質と応用地質」
 午後の部 技術講習会「応用地質計測」

早朝から多くの参加者が集まり、受け付けでは列ができるような雰囲気の中で、午前9時30分に田野支部長の開会挨拶で始まった。午前の部は「東北の地形地質と応用地質」というテーマで、応用地質学会40周年記念シンポジウム予稿集の東北の部担当執筆者3氏による話題提供と討議がなされた。

東北の地形・地質の地域的特徴：今野隆彦（ジオプランニング）

これらを背景にした地すべり・地盤災害の事例とその特徴：橋本修一（東北電力）・東北地方における建設プロジェクトの傾向と特徴：中曾根茂樹（日本工営）

橋本氏は岩手山の火山活動に関連してハザードマップの紹介し、地質技術者の関わりがますます重要になってきていることを強調した。また、東北のプロジェクトに関連し、東北農政局の備前氏

より、土木施設の維持管理に係るプロジェクトが今後増えてくるだろうということが示された。また、東北地方建設局の資料などによれば、今後の社会資本整備のあり方は、「国土建設から国土マネジメントの転換」という認識で進められることになるだろうということが話題提供された。

午後の部は、応用地質学会本部から派遣された5名の講師による応用地質計測に関する講習会がおこなわれた。

総論・テキスト説明 野口 達雄（鉄道総研）

ダム・山留め 稲葉 武史（カジマ）

地すべり・斜面崩壊 田山 聡（道路公団）

AE・トンネル 西村 毅（ハザマ）

断層活動 粟田 泰夫（地質調査所）

最近の大規模プロジェクトにおける地山計測の豊富な事例紹介と計測の評価に関する基本的な考え方について、各講師がそれぞれのテーマごとに解説された。各氏とも次のような事を強調された。

- ・計測計画が重要：正確な地質情報が計測結果を左右する。
- ・変形モードをとらえようとする事は、機構を考えることにつながる。
- ・新しい手法は実績を積み重ねることが必要
- ・理論と統計の検証が重要である。

粟田氏は断層活動に関しては100年単位の評価ができるような資料の有効な取得が最も需要であ

り、大規模な構造線とセットになった後背湿地の連続した堆積物の調査の意義を強調された。また、活断層のセグメントのどの部分が動くかを系統的調査で予測して、地盤条件を加味したよりきめの細かい被害予測に踏み込んでいくのがこれから

の地震防災の方向性であることを述べられた。

質疑応答も活発で有意義な講習会となった。講師の方々も本講習会への参加者が多かったことに感謝していた。

応用地質計測 —手法と解釈・評価—

日本応用地質学会

お問合せは、応用地質学会まで